

第73号

医薬理工学環
創薬・製剤工学プログラム
生体機能性分子工学研究室
修士2年
北海道函館中部高等学校
(北海道出身)



勉強と部活動を両立

小学校から高校まで、野球を続けていました。高校は、部活動も勉強も手を抜かず頑張るという雰囲気でした。地味なトレーニングも続け、粘り強さを身に付けました。7歳の兄が当時大学院に進んで研究していた姿をみて、自分も大学では研究をしたいと憧れを抱きました。当時は研究したい対象は決まっておらず、大学に入って没頭できるものを見つけたいと思っていました。第一志望の大学を目指し、部活動と勉強の両立を頑張っていました。部活の引退後は、受験勉強に全力を注ぎました。

担任の先生が富山推し

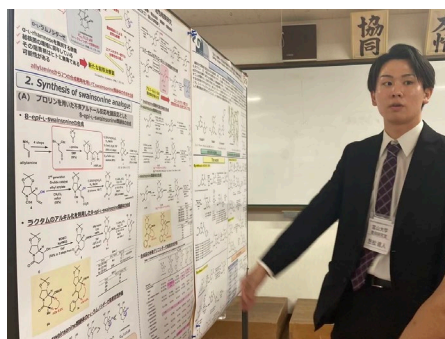
第一志望の大学しか考えておらず、後期日程の受験校を考えたときに改めてやってみたいことに向き合うことになりました。担任の先生と話し合い、「医療と工学の融合に興味がある」と話しました。先生が色々な大学の情報を調べ、富山大学の工学部の生命工学コースであれば医療と工学の勉強ができるとお勧めしてくれました。何より「テレビで見た黒部ダムがすごくきれいで感動した!」という言葉もあり、富山大学と富山県のことを調べてみました。興味を持った研究が出来そうなことと、豊かな自然に感激して、後期日程は富山大学を受験しました。

負けん気の強さで泥臭く努力

大学入学直後、コロナ禍でオンライン授業がメインとなりました。大学受験で第一志望の大学に入れなかったことで悔しい思いをしました。目の前の勉強をひたすら頑張るうちに、「努力して自己成長を遂げたいという人間性をみてもらいたい」という気持ちになっていきました。どの授業もまじめに取り組み、有機化学を専門とする豊岡尚樹教授と岡田卓也准教授に気にかけてもらえるようになりました。2年後期の時点で、先生や先輩の話を聞いて、豊岡先生の生体機能性分子工学研究室で研究を頑張ろうと決めました。

学会発表に注力

3年後期の仮配属から、朝は誰よりも早く研究室に行き、実験をして、技術や知識を身に付けようとしてきました。大学院に進み、更に深く研究を続けました。2025年9月の第53回構造活性相関シンポジウムで、「新たな結核治療薬の開発につながる可能性のあるラムシノダーゼ阻害剤」について発表し、優秀発表賞を受賞出来ました。春からは、製薬会社の医薬品研究職として働く予定です。難病や希少疾患の方の希望の光となるような薬の開発に全力を注ぎたいです。



高校の後輩たちへ

コツコツと積み重ねておくことが大事です。運動部の人は、引退後は部活動で身に付いたであろう無限の体力と根性で勉強しまくりましょう。

お世話になった高校の先生へ

先生がテレビを見て感動した黒部ダムには、残念ながら行けていませんが、先生が富山の自然の豊かさに感動して何気なく勧めてくださった富山大学で、自分が大きく成長出来たと実感しています。ありがとうございます。